

令和元年度 ひきこもりに関する普及啓発講演会 実施要領

1. 目的

対人交流に困難を感じ、社会参加が難しく、家庭にひきこもった状態の人の実態は明確ではないが、ひきこもり期間の長期化、本人や両親の高齢化も社会的に取り上げられる機会が増えてきている。ひきこもりの支援先が周知されていなかったり、相談することに抵抗があるなど、本人、家族が支援機関へつながることが難しい場合も少なくない。また、ひきこもり状態に悩む本人、家族との関わりに、支援者も難しさを感じるなど、多くの課題や困難さも見えてくる。

今回、ひきこもりに関する取材を多く扱っているジャーナリストの池上正樹氏を講師に招き、8050 問題を中心に、ひきこもり状態にいる人の理解と支援について改めて考えることを目的に講演会を開催する。

2. 主催

高知県立精神保健福祉センター
(高知県ひきこもり地域支援センター)

3. 対象

ひきこもり支援に関わる関係機関職員、および家族や関心を持つ県民。定員 150 名。

4. 参加費

無料

5. 日時

令和2年2月15日(土) 13:30～16:30

6. 場所

高知会館 白鳳の間(高知市本町5丁目6-42)

7. 内容

13:30～	開会のあいさつ
13:40～16:00	講演『ひきこもり 8050 問題～周囲ができること～』 講師 池上 正樹 ジャーナリスト
	適宜休憩
16:00～16:30	質疑応答

8. その他

別添申込書による事前申し込みと当日参加も受け付ける。

要約筆記、手話通訳については、事前申し込みにて希望者がいれば実施。

はちまるごーまる
講演 ひきこもり8050問題
～周囲ができること～

なかなか家から出られない、人との交流が持てないなど様々な事情からひきこもらざるを得ない状態の方々があります。またひきこもりの期間が長引き、本人や両親が高齢化して年金暮らしの親が収入のない子供と生活していること(いわゆる8050問題)も社会的に多く取り上げられてきました。ご本人ご家族をはじめ、その周りにいる方々も課題への困難さを感じています。そのような中、ひきこもりの状態にある人を周囲はどのように理解し、何ができるでしょうか。今回、ジャーナリスト池上正樹氏のお話から、わたしたちにできることを考えていきたいと思います。関心をお持ちの方どなたでも参加いただけます。多くの方のご参加をお待ちしています。

講師 ジャーナリスト

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会理事

池上 正樹 氏

8050 問題、労働環境、災害、女性のひきこもりなど、さまざまな切り口からひきこもりの背景にある社会問題を考え発信されているジャーナリストです。昨今の事件や話題に応じて数多くのTV・ラジオ番組に出演。新書『ルポ「8050 問題」 高齢親子“ひきこもり死”の現場から』をはじめ数多くの著書もあります。

日時 令和2年

2/15 (土)

午後1時30分～4時30分
(午後1時開場)

無料
当日参加OK

場所 高知会館 白鳳の間
(高知市本町5丁目6-42)

対象 関心をお持ちの方、ひきこもり支援に関わる方
定員 150名

申込方法 裏面用紙でのファックスまたはお電話にてお申し込み下さい。

※手話通訳・要約筆記が必要な方も1月30日までにお問い合わせください。

お問合せ先 高知県ひきこもり地域支援センター TEL088-821-4508

主催：高知県立精神保健福祉センター（高知県ひきこもり地域支援センター）

